

## 「機動的国際交流」の基本的考え方

平成20年10月  
(独)日本学術振興会  
国際事業部地域交流課

### 1. 趣旨

我が国の研究活動のポテンシャルに基づいたアジア諸国との多層的ネットワーク構築のため、国内外の政策的要請も考慮しながら、大学・研究機関、アカデミー・学協会、その他国内外の協力機関などと協力し、国際交流事業を機動的に実施する。また、その際には産学官の各セクターにおける他の交流事業とも連携を図りつつ事業を実施する。

### 2. 対象分野

自然科学、および自然科学と人文・社会科学との融合領域

### 3. 対象活動・取り組み

本事業は以下のいずれかの活動・取り組みを対象とする。

#### (1) アジア地域共通課題の解決

アジア地域における共通関心事項であり、共同してその解決に取り組むことが我が国及び対応国にとって相互利益となる課題や分野を対象とした活動

#### (2) アジア地域におけるネットワーク・オブ・エクセレンスの形成

急速に発展するアジア地域において世界トップレベルの研究水準を有する、もしくは非常に高い研究水準にある研究拠点同士のネットワークの構築を目指したものであり、我が国研究者の積極的参画が重要であると考えられる取り組み

#### (3) 地域アカデミー、学協会の構築

欧米に匹敵する規模・水準を有する学協会の、我が国の主導によるネットワークの形成

#### (4) 我が国主導の研究ネットワークの形成

その他、アジア地域において我が国の積極的な貢献が求められる研究ネットワーク形成の取り組み

### 4. 事業内容

(1) 国内、国外での国際集会（国際会議、シンポジウム、ワークショップ）の開催

(2) 研究者の派遣・受入れ

## 5. 事業に求められる要件

本事業は、以下の全ての要件を満たすものとする。

- (1) 2. に挙げられたいずれかの活動・取り組みであること。【適切な対象】
- (2) ①本事業によって適切なタイミングに実施することにより、より大きな効果が期待できる、または、取り組みが加速しある一定の段階（クリティカル・マス）を越えることが期待できる取り組み、もしくは②アジア地域においてこれまで行われておらず、我が国が率先して実施することによって、イニシアティブを発揮することが期待できる取り組みであること。【適切なタイミング】
- (3) 構築を目指すネットワークの中核として十分な役割を果たすことが期待できる能力、実績、人的ネットワークを有すること（我が国への留学・滞在経験を有する研究者や人材の積極的参画が期待できることが望ましい）。【相手国機関・研究者の積極的参画】
- (4) 他の制度により実施される取り組みと組み合わせて行う場合は、全体の中で、本制度による取り組みの位置づけ、付加価値が明確にされていること。【事業の位置づけの明確化】
- (5) 本事業による交流事業実施後のネットワーク構築のための活動について明確な見通しを持っており、その中での本事業の成果をいかに活用するかについて具体的な計画を有していること。【成果の活用と将来展開】

## 6. 事業計画の選定について

以下の(1)～(3)を日本学術振興会が取りまとめ、アジア科学技術コミュニティ形成戦略事業コーディネーター会議での議論に付した上で、決定する。日本学術振興会は、コーディネーター会議での議論等に基づき、適宜事業計画の修正を行う。

- (1) 日本学術振興会がこれまでの各種交流事業を通じて培ったネットワークを通じて収集した事業計画案
- (2) 日本学術振興会等が行う各種国際交流事業の中から抽出した、本事業の趣旨に合致する事業計画案
- (3) その他、大学・研究機関等から企画提案された事業計画案

## 7. その他

- (1) 本事業の実施は日本学術振興会が行う。ただし必要な場合には、協力機関・提案機関と共同で行う。
- (2) 事業実施に当たり、事業相手国における日本学術振興会の対応機関の協力を得ることが効果的と考えられる場合には、当該機関に対して積極的な協力を依頼する。